



センター通信

〒 123-0873 東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880
URL www.wfc.or.jp

センター職員の使命 ～一年のご報告にかえて～

皆様には、お変わりなくお過ごしのことと存じ上げます。

おかげさまで私共も、多くの子ども達と一緒に、無事一年を終えようとしております。

反抗期のこどもたちと・・・

センターの「自立援助ホーム」や「養護施設」は、主に施設を中卒で出された子どもたちのために、活動をしてきたので、90名を超える利用者全員は10代なかばからのティーンエイジャーばかりです。

当然彼らは反抗期の真っ最中、職員の忠告・注意など、なかなかすんなり聴き入れません。

また、思春期でもあり、異性への関心や、それに関連した“問題行動”も多いのは当然で、日常茶飯事です。しかも、幼児や小中学生とは違って、体力的には職員とは互角かそれ以上なので、大声で叱るなんて、ただ反発を食らうだけで、効果ありません。

そんな状況の中で、彼らが社会に伍してゆけるよう、規律ある生活を教え、送らせなければなりませんから、職員達の苦労も、ひととおりでありません。

しかし、社会へ出て困らないようにするためにはどうしても教え、矯正し、躰けなければならない事はいっぱいあります。



職員研修にて

後ろ姿・・・

さて、子どもはよく「親の後ろ姿を見て育つ」と申します。実際に、我が家の子ども達も、我々の「忠言」や「お説教」は、あまり聞きたくないようです。

ですから、我々も、自分の日常の行動・「後ろ姿」でそれを学ばせなければなりません。

そのためには、毎日きちんとした服装を整え、彼らとの一寸した言葉のやりとりや、挨拶にも心を込め、粗雑にならぬよう心がけ、約束ごとや時間の決まり、規則の遵守なども、先ず自分が率先して守り、こうした日常の挙措の中に自分の努力する姿を示します。

まもなく巣立ってゆく彼らに、実社会での「人間関係のあり方」も教えなければなりません。職員どうしの息のあった仲の良さや・・・チームワークを見せるのが何よりの“教え”だと思います。

又、職員1人々が、それぞれに自分の「夢」を持ち、それを語り、それに向かって、明るく生き抜く姿を見せることで、彼らにも「夢」を持たせ、育てる事ができます。

私達の利用者は、ここを出ると、その殆どが、すぐ働きはじめ、社会の一員となります。彼らは決して優秀ではないかもしれませんが、みんな勤勉で善良な市民に育ってほしいと思います。又そうすることが、私達の使命だと思っています。

激動に明け暮れた今年も、残す所あと僅かになりました。新しい年が、世界にとって、日本にとって、特に、皆様にとって素晴らしい年でありますよう、皆様のご健勝ご多幸を、感謝を込めて、センター一同心からお祈り申し上げます。

専務理事 長谷場夏雄

職員研修実施

長谷場専務理事は、各事業所の事業所長および職員に対して、現場に出向き、研修を行っています。これは、センターの理念と心がまえを職員に十分に認識してもらい、実践してもらうことを目的としています。現場によって課題はさまざまです。その課題に助言しながら、一緒になって、児童の幸せのために取り組んでいます。その他にも職員の資質向上のために下記の研修に取り組んでいます。

1. 法人内研修

(1) 宿泊研修

今年も山梨にて法人全体の宿泊研修を実施しました。2グループに分かれて総勢51名が参加しました。全員でロールプレイを職員役・児童役に分かれて行いました。相手の立場になって考えることの大切さを再認識しました。

(2) 新任職員研修

今年度から法人全体で新任職員研修を行うことにしました。4月に2日間オリエンテーションを含めた新任職員研修を実施し、9月に1日フォローアップ研修を行いました。

(3) 上級職員研修

事業計画に基づき、実施計画書を作成し、

発表しました。お互いの事業所の取り組みについて共有できました。

(4) 合同会議

次期リーダーを育てるために、事業所長と共に月1回の合同会議を開催しています。主に事業所の運営・財務などを話し合っています。

2. 法人外研修

(1) 東京都社会福祉協議会 児童部会 階級別研修

(2) 東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター階級別研修

(3) 子どもの虹情報研修センター 階級別研修

(4) 自立援助ホームスタッフ研修

(5) その他



宿泊研修にて

近・況・報・告

季節の行事を大切に

児童養護施設 あけの星学園のようす
(定員20名)

現在建物内の老朽化が著しいため、大規模修繕工事を実施しています。主な修繕内容は、壁紙の交換および空調設備の入れ替えです。年明けには、きれいで温かいあけの星学園に生まれ変わります。

11月には、学園を支援して下さる方々のご厚意で、富士急ハイランドへ行って参りました。児童たちも日常を忘れて、思う存分楽しむことができ、またよい息抜きとなりました。

あけの星学園には現在20名の児童が暮らしています。その中には、高校進学を控えている児童が4名います。また、高校3年生で、専門学校を受験して見事合格した児童もいます。進学ではなく、就職を選択した児童もいます。その女子は、病院の給食サービスの企業から早くに内定をいただきました。こ

の不景気のなか、就職できたのは立派なものです。

10月29日に仮装ハロウィンパーティーを開催しました。職員は1名ずつがドラキュラ役とフランケンシュタイン役を演じて、大盛り上がりとなりました。児童も帽子を被ったりしながら、パーティーを楽しんでいました。

12月23日にはクリスマス会を開く予定です。児童たちもいまから楽しみにしています。あけの星学園は、さまざまな季節の行事を企画実行しています。これも学園を支援して下さるみな様のご協力がある成り立つので

す。ここに感謝申し上げますとともに、どうぞ引き続き支援くださいますようお願いいたします。



学園でのハロウィンパーティ

将来の夢に向けて

児童養護施設 暁星学園のようす

(定員 36 名)

ヤクルト様よりご招待を受けて、毎月プロ野球の観戦に行っています。生のプロ野球を観戦したことがない児童達にとっては、大変貴重かつエキサイティングな体験となっています。

昨年に引き続き、今年も大学受験をする児童がいます。彼は社会学に興味があり、現在受験に向けて取り組んでいます。高校2年生では、専門学校に進学希望をしている児童が数名います。電車の運転手、調理人、保育士等、実にさまざまな将来の夢を持っています。児童たちはそれぞれの夢に向かって、今からできることに取り組んでいます。

本園では現在、2階に7名、3階に9名、4階に9名と各階で支援を分けています。これは児童個々にきめ細かい支援を実施するために必要なことと考えています。3階では、中学生および高校1・2年生が生活をしています。4階では、高校3年生中心に

生活をしています。高校を卒業すると、学園を退所することになります。退所が近づくにつれ上の階へと生活の場を変えていきます。4階では、退所が1年以内であるため、自立した生活ができるように支援を工夫しています。

学園で長年利用していた園生送迎用車両が古くなりました。

平成23年度財団法人中央競馬馬主社会福祉財団の助成金を申請させていただいたところ、交付決定のご報告をいただきました。車両は年末に購入できたらと考えています。

財団の皆様および馬主の皆様がこの場を借りて感謝申し上げます。



在園生Y君からの手紙

夏休みに相馬市へボランティアに行った在園生T君、お世話になった方々にお礼状を書きました。ご紹介します。

相馬神社のみな様へ

相馬神社のみな様、先日は大変お世話になりました。今回は、被災地のボランティア活動をさせていただき、ありがとうございます。ボランティア活動をして、被災されたみな様の気持ちが痛いほど分かりました。それでも、そんな中で一生懸命に今を生きているみな様を見て、とても勇気づけられました。

今回のボランティアでいろんな事を学びました。馬の堆肥詰めや、ヤギの散歩など、色々な事をさせていただいて、その大変さを学びました。また、津波の被害にあった場所に行くと、津波の恐ろしさを改めて実感しました。見た光景は、あまりにもひどくざんこくでした。電柱は根本からポッキリと折れ、民家は一階の部分がほとんど流れ、それは家とはいえないような状態でした。車も、ペシャンコにつぶれ、原形が残っていないものもありました。今は大変でも、いつかはまた以前と同じような生活が送れることを心から願っています。また、ボランティアをさせていただく機会があれば、是非お手伝いさせてほしいです。本日は本当にお世話になりました。

OBのT君 父親に!

自立援助ホーム 新宿寮のようす
(定員男子15名)

東日本大震災から7ヶ月が経ちました。夏号でもご報告のとおり、東北復興の足手まといとならないよう、新宿寮の改築を2年間延期いたしました。関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしています。震災の教訓から、火災・地震の発生を想定して、避難訓練を毎月1回実施しています。前回の訓練では、全員が建物の外に出るまで60秒かかりました。備えあれば憂いなし。無駄のない避難を実施できるように、さらに訓練を重ねていきます。

夏には、寮生と八丈島へ行って来ました。仕事でたまっていた寮生のストレスは、島の澄んだ空気と青い海で、いっきに消しとんだようでした。忘れられない思い出となったに違いありません。

卒寮生の中には、結婚した男子もいます。彼は5月に一児の父となりました。おめでとう。在寮中から仕事を一生懸命にしていた彼ですから、父となって、よりいっそう頑張ってくれることでしょう。くれぐれも体に気をつけて、無理をしないでください。もう一人ではないのですから。寮に子どもを見せに来てくれるのを職員一同楽しみにしています。



八丈島にて

高卒認定試験に向けて

自立援助ホーム 清周寮のようす
(定員女子15名)

震災の影響でしょうか、寮の非常階段のコンクリート部分が、一部崩れそうになっていました。日頃利用しない部分ではありましたが、いざという時に使えないと困るので、修繕をしました。これで毎月の避難訓練が実施できそうです。

夏には寮生を連れて、江ノ島水族館に行って来ました。水族館は久しぶりの寮生も多く、目を輝かせながら、魚を観察していました。とても楽しかったようでした。10月には東京ディズニーランドへ行きました。夢の国の夢のような時間は、あっという間に過ぎてしまいました。寮生にとって、何度行ってもディズニーは良いようです。

寮には中学卒業の学歴しか持っていない女子も多くいます。そんな彼女らは、一生懸命にアルバイトをして生活をまかなっています。しかし、アルバイトは不安定な雇用です。安定した正社員の仕事をするには、高卒の資格が必要となる場合が多いのです。その道への一歩として、寮では高卒認定試験の受験を寮生に奨めています。現在、寮生の中にその試験合格を目指して勉強している女子がいます。安定した将来をつかむために、頑張ってください。応援しています。



資格取得へ

自立援助ホーム おうぎ寮のようす
(定員男女6名)

まだ暑さが残る9月、早くも秋を感じようと千葉県へ栗拾いとさつまいも堀りに行ってきました。栗はあいく先客にほとんどを取られた後だったようで、収穫は数個でしたが、さつまいもは沢山取ることができました。子どもたちも普段土に触ることが少ないので楽しみ、帰りは温泉で汗を流して日ごろの疲れをとってきました。

最近おうぎ寮では、自動車運転免許を取る子どもが3名います。現在は2週間程度で、合宿にて免許を取ることができます。その合宿に行った女の子が2名います。また、教習所に通学している男の子が1名います。世の中にある資格のなかで、一番身近な資格であり、確実な身分証となるのが自動車運転免許です。しかしその取得は、簡単ではなく、毎日の勉強や訓練なしでは取得できませんが、その分、取得した時は達成感に満たされます。将来ワーキングプアにならないように、できれば何かの資格を取得することを勧めています。その理由の1つは山を登りきったという目的達成感・満足感が得られること。2つ目はその山の乗り越え方を体が覚えると言うこと。3つ目は次に山にぶつかったときに、前回の経験を生かして自らの力で乗り越えられるという大きな自信がつくことです。これからも子どもたちの将来が、豊かで安定した生活が送れるように、様々な支援をしていきたいと思っています。



さつまいも堀りをする寮生

ノエルの就労支援

共同生活援助 ノエルのようす
(定員女性5人)

現在、3名の利用者がいるノエルです。ほかの事業所と違い、成人した女性ですので、行動を共にするというよりも、それぞれの生活パターンを尊重しつつ、自立に向けての準備をしています。

病気を抱えていて、食事制限が必要な1人の利用者は、アパート生活に向けての準備の1歩として、配食サービスの利用を始めました。それにより、低カロリーの夕食を届けて貰っています。面倒なカロリー計算をしながらの夕食作りで長続きが難しくなるよりも、この様なサービスを利用して、自立への道を歩み出しています。

なかなか仕事に就けなかった利用者は、区の就労支援制度を利用して仕事を行うに当たっての基本的な作業を習得しつつ、1年近くが経ちました。漸く、自分に合った仕事先に就くようになり、先ずは半日の勤務から始めています。毎晩、美味しい夕食を用意して待ち、話を聞きながら、翌日に向けて又1歩が踏み出せるようにと支援しています。毎日、きちんと身だしなみを整えて出かける利用者を見て、就労するまでに時間はかかりましたが、この仕事先で働くことの楽しさも感じてくれるようになり、この先の自立に結びつく日が来るようにと、努めています。

3人3様の利用者達ですが、それぞれの仕事や生活体系に合わせて職員が対応をしていくことにより、自立への道を歩んでいるこの頃です。



来年 7 月 聖心バザー開催決定

隔年に1度の聖心バザーが、聖心インターナショナルスクールと後援会のご協力も得て開催が決まりました。来年(平成24年)7月14日(土)です。今までは6月に行っていましたが、梅雨時でもあり、毎年の指導検査の時期とも重なるために、今回は7月に開催致します。是非、多くの方々のご来場をお待ちしております。

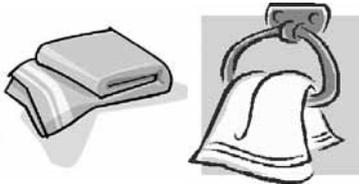
新装になった体育館でゲームやお買い物をお楽しみ頂き、食堂では美味しいお食事を召し上がって頂きたいと考えております。又、リラックス気分を味わって頂くために、前回、初めて行ったリフレクソロジーを今回も外部の方のご協力により、実施致します。勿論、ラッフルも実施致したいと考えております。ご来場の皆様楽しんで頂けるバザーにしていきたいと後援者の皆様と共に色々と知恵を出し合っております。

年の瀬を迎え、ご自宅のお片づけをされた居りに、到来品等ご不要の品物が出てきましたら、是非、ホワイトエレファントで売らせて頂きたいと思っておりますので、法人本部宛にお送り下さい。

多くの皆様のご協力により成り立っております聖心バザーですので、実施に向けてご案内等を来年になりましたら、お送り致す予定ですので、よろしく願い申し上げます。

ご家庭で眠っている新古品、ご寄付くださいませんか

・タオル類・シーツ類



・食器類



・貴金属類



・雑貨類



・電化製品



・バッグ類



送り先:〒123-0873 東京都足立区扇 1-12-20 青少年福祉センター 法人本部宛
TEL : 03-3856-2728

雑誌『サライ』に

2011年12月号の76頁から80頁にわたり、長谷場専務理事が取り上げられました。震災孤児の支援からはじまり、現在までの活動を、専務理事個人に焦点をあてて、江川紹子さんのインタビュー形式で掲載されています。お求めは、お近くの本屋さんにてご確認ください。

編集後記

「子ども達に美味しい食事を、よい服を」との想いで遺産をご寄付くださった方がいらっしゃいます。旅行等の行事に充てさせて頂きました。お礼として旅行写真をお渡ししたところ、仏壇にお供えいただいたとのことでした。その温かいお気持ちに感銘しております。センターは人の心でつくられている。これをいつまでも胸に刻んで・・・本年もご支援をありがとうございました。来る年が皆様にとって良い年となりますように、心よりお祈りいたします。

